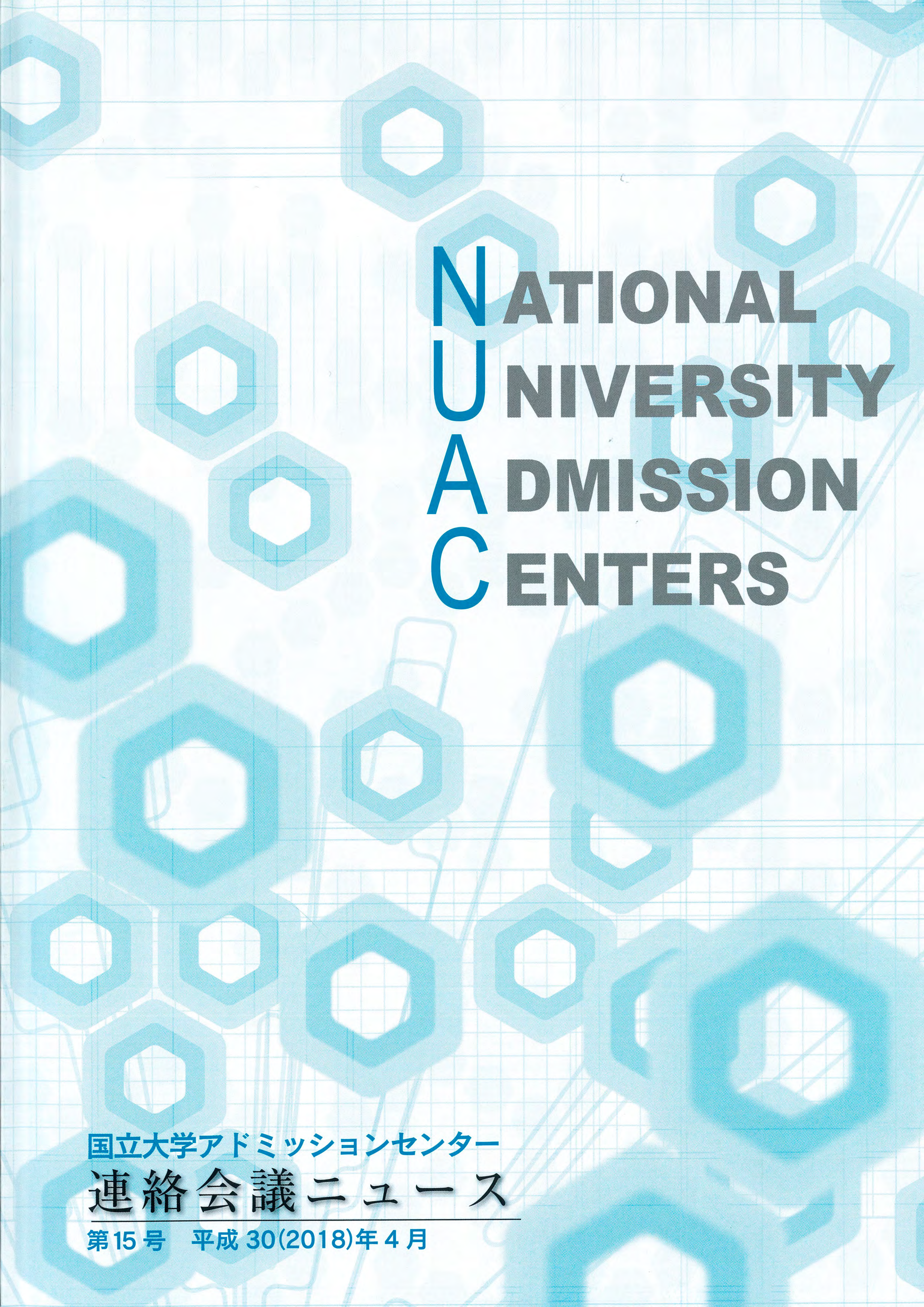




NATIONAL UNIVERSITY ADMISSION CENTERS

国立大学アドミッションセンター
連絡会議ニュース

第15号 平成30(2018)年4月

国立大学アドミッションセンター

連絡会議ニュース



会場となった「富山国際会議場」



会議の様子



文部科学省・大学振興課大学入試室 荒木室長補佐

第15回総会を開催

平成29年5月24日(水)12時15分から、富山国際会議場において、国立大学アドミッションセンター連絡会議第15回総会が開催されました。

船橋事務局長（富山大学教育・学生支援機構アドミッションセンター副センター長）より開会の辞があり、田原会長による開会挨拶の後、議事に先立ち、文部科学省高等教育局より来賓としてご臨席の大学振興課大学入試室 荒木室長補佐からご祝辞とご挨拶をいただきました。

議事においては、次第に基づき、新規加盟4機関（「小樽商科大学アドミッションセンター」、「福島大学アドミッションセンター」、「東京大学高大接続研究開発センター」、「電気通信大学アドミッションセンター」）の承認及び岩手大学入試委員会の退会の報告、会則の改正及び会計報告が行われました。引き続き、大学からの報告として、福井大学 大久保貢教授から「高大接続改革にどのように対応するのか？」について講演していただき、参加者との活発な意見交換が行われました。

最後に、船橋事務局長から挨拶があり、第15回総会を終了しました。
 以下は、総会議事要録、大久保教授の講演要旨です。ご覧いただきますようお願いします。

【参考】会計報告

平成28年度国立大学アドミッションセンター連絡会議運営費会計報告

平成28年4月1日～平成29年3月31日

収入の部		支出の部	
	円		円
前年度繰越	1,082,306	連絡会議ニュース第13号	164,000
会費（加盟26大学）	520,000	第14回総会会場（立命館大学）・機材等使用料	89,956
		次年度繰越	1,348,350
計	1,602,306	計	1,602,306

国立大学アドミッションセンター連絡会議 第15回総会議事要録

- 1 日 時 平成 29 年 5 月 24 日（水）12：15～13：30
- 2 場 所 富山国際会議場 多目的会議室
- 3 次 第
 - 1 新規加盟機関の承認（案）について
 - 2 会則の改正（案）について
 - 3 会計報告について
 - 4 その他

開 会

田原会長による開会挨拶により、第 15 回総会を開始した。

議事に先立ち、文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室 荒木室長補佐から来賓挨拶をいただいた。

議 事

1. 新規加盟機関の承認（案）について
船橋事務局長から、小樽商科大学アドミッションセンター、福島大学アドミッションセンター、東京大学高大接続研究開発センター及び電気通信大学アドミッションセンターの 4 機関から新規加盟申請があった旨説明があり、審議の結果、加盟が承認された。
2. 会則の改正（案）について
船橋事務局長から、4 機関の新規加盟に加え、加盟機関の名称変更に伴う会則の改正について説明があり、審議の結果、承認された。
3. 会計報告について
船橋事務局長から、資料 3 に基づき会計報告が行われた。
4. その他
船橋事務局長から、岩手大学入試委員会の退会報告が行われた。

特別レポート

福井大学 大久保教授から「高大接続改革にどのように対応するのか？」と題して講演が行われた後、参加者との活発な意見交換が行われた。

閉 会

加盟大学からの活動報告

福井大学

「高大接続改革にどのように対応するのか？」

大久保 貢（福井大学アドミッションセンター教授）

高大接続改革に どのように対応するのか？

福井大学
アドミッションセンター
大久保 貢 170524

高大接続改革

- 高校教育、大学入学者選抜、大学教育の
一体的改革

「入試改革」…マスコミ等

狙い：高校教育の知識偏重からの脱却
(高校教育の質保証)

→ これは、「教育改革」である



これまでの経験

【入試改革】：福井大学工学部

H15年度 AO入試を本格的導入

（募集人員の2割をAO入試で選抜）



AO入試入学生の学業成績
（追跡調査）



AO入試入学生の学業成績 追跡調査 結果

👉 高校教育が変わらず、入試改革を行うと



留年率 増加傾向！

【（数学＋物理）が基礎学力の学科】



（現状）AO入試 縮小・廃止の方向

これまでの経験より

高校教育の質保証

と合わせて

入試改革を！



・・・単なる入試改革だけでもダメ

【高校教育の問題点】

- 10年前の高校教育と現行の高校教育を比較すると、ほとんど変化していない。

- 相変わらず暗記中心の学び
- 大学合格が高校教育のゴール
- 大学入学後、伸びるような学びは二の次

▶ 探究的な学びへ…質保証

～高校教育の質保証のために～

高大連携による課題研究の実践 (平成15年度から14年連続)



【視点1】: 高大での学びの違い

- 高校までの学び
恒常的知識の獲得 cf: 「 $2+4=6$ 」
仮想現実主義など…「正解がある学び」
教師による学習指導 (Teaching)
- 大学での学び
可変的知識の存在を理解 cf: 「 $X+Y=6$ 」
現実的世界…「正解がない学び」
自分で問題を探し解決 (Learning)

【視点2】: 高大で求める資質の乖離

高校で育てられている資質

- ▲ 基礎知識、▲ 理解力、▲ 数理能力、
- ▲ 読解力_{など}

大学は多くの資質を学生に求めている。

- ▲ 問題解決能力、▲ 文章表現能力、▲ 創造性
- ▲ プレゼンテーション能力 ▲ コミュニケーション能力
- ▲ 探求心、▲ 論理的思考力、▲ 思考の柔軟性

高大連携活動の必要性

これらの資質の育成: 高校の教育課程では困難
そのため、新しいカタチの高大連携が必要！

乖離した学び、資質の橋渡し



高大連携を実施する上での共通の目標

・・・即ち、現在の「高大接続改革」

課題研究 実施テーマ(物理系、化学系)

【物理系】

コンピュータを使った音声情報処理
太陽熱を利用した海水の淡水化技術

など

【化学系】

髪の毛を使った遺伝子による個人識別
プラスチック成形加工の基礎を学ぶ

など

ACが主導した高大連携活動

☆ 新しい形の高大連携：継続的で長期的視野



高校生の資質を伸ばす：教育内容への支援

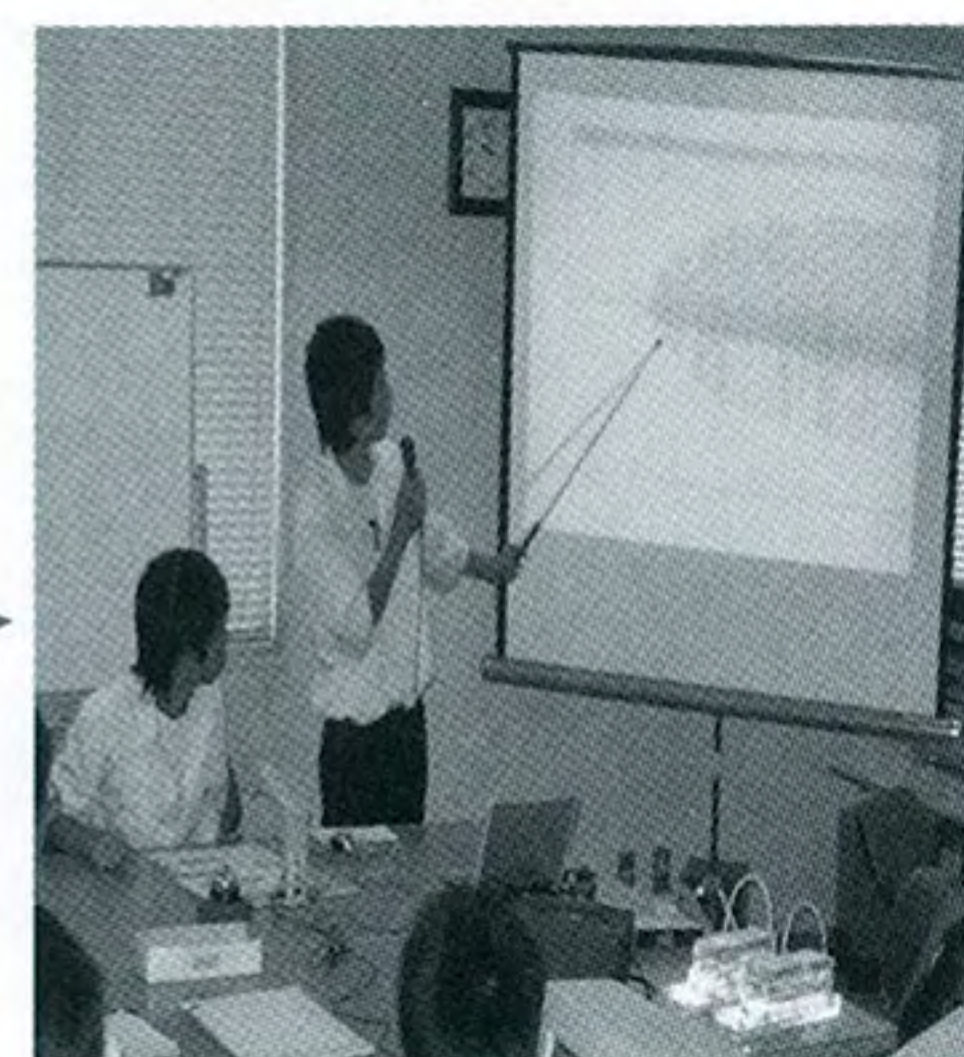
テーマに関する講義



実験・実習

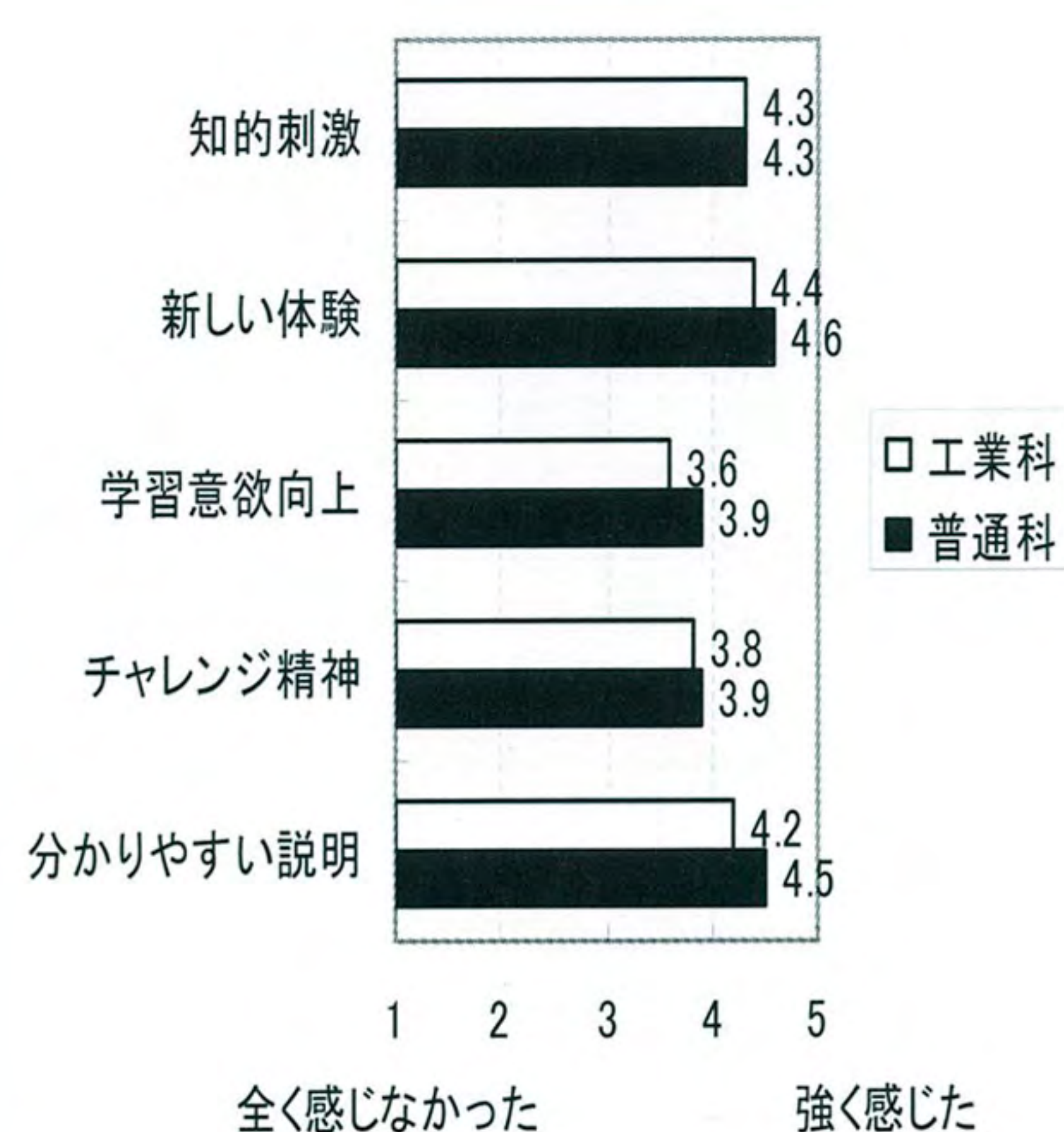


研究成果発表会

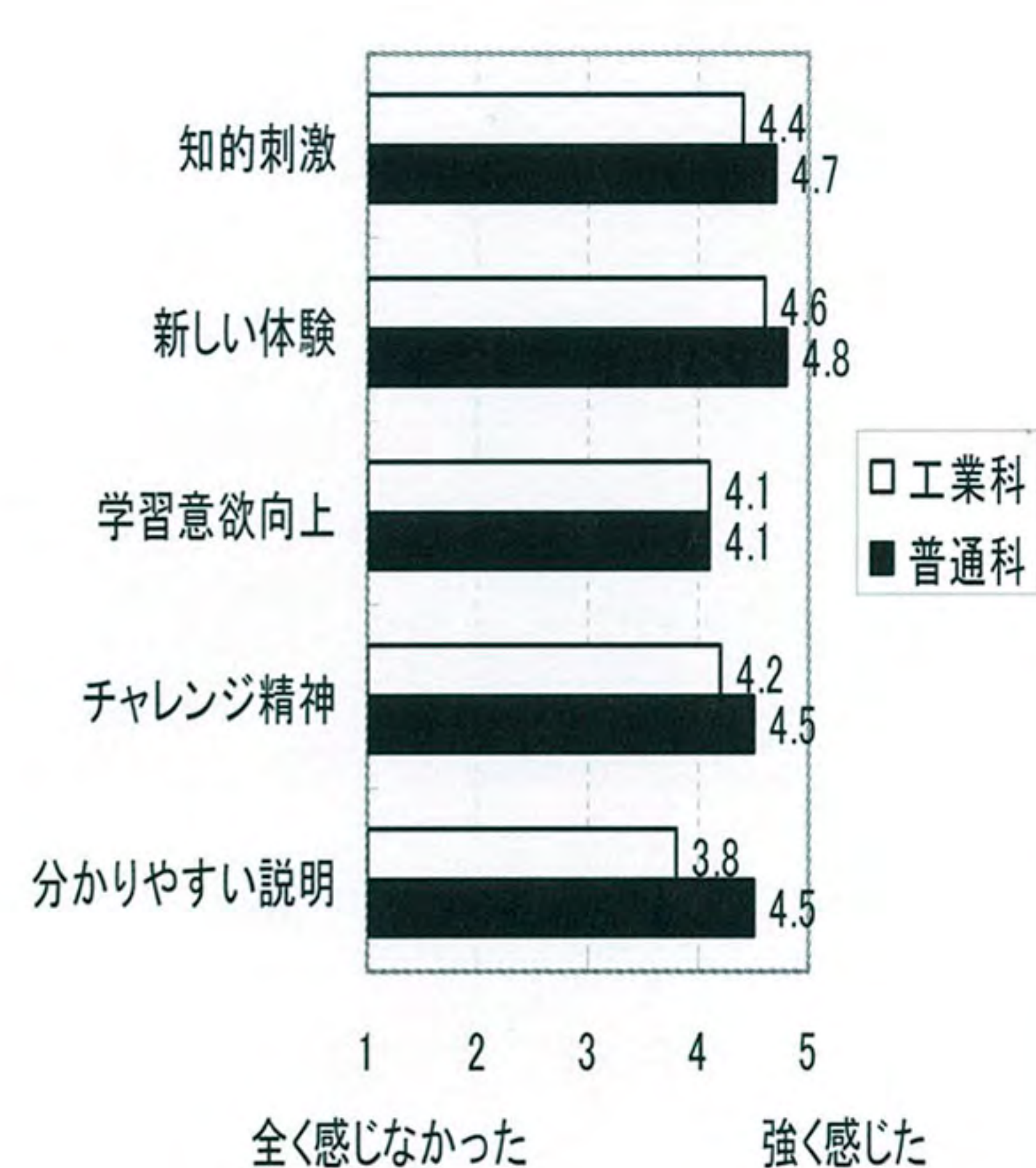


高大連携の成果（Ⅰ）：終了時 自己評価

物理系（工業科と普通科）

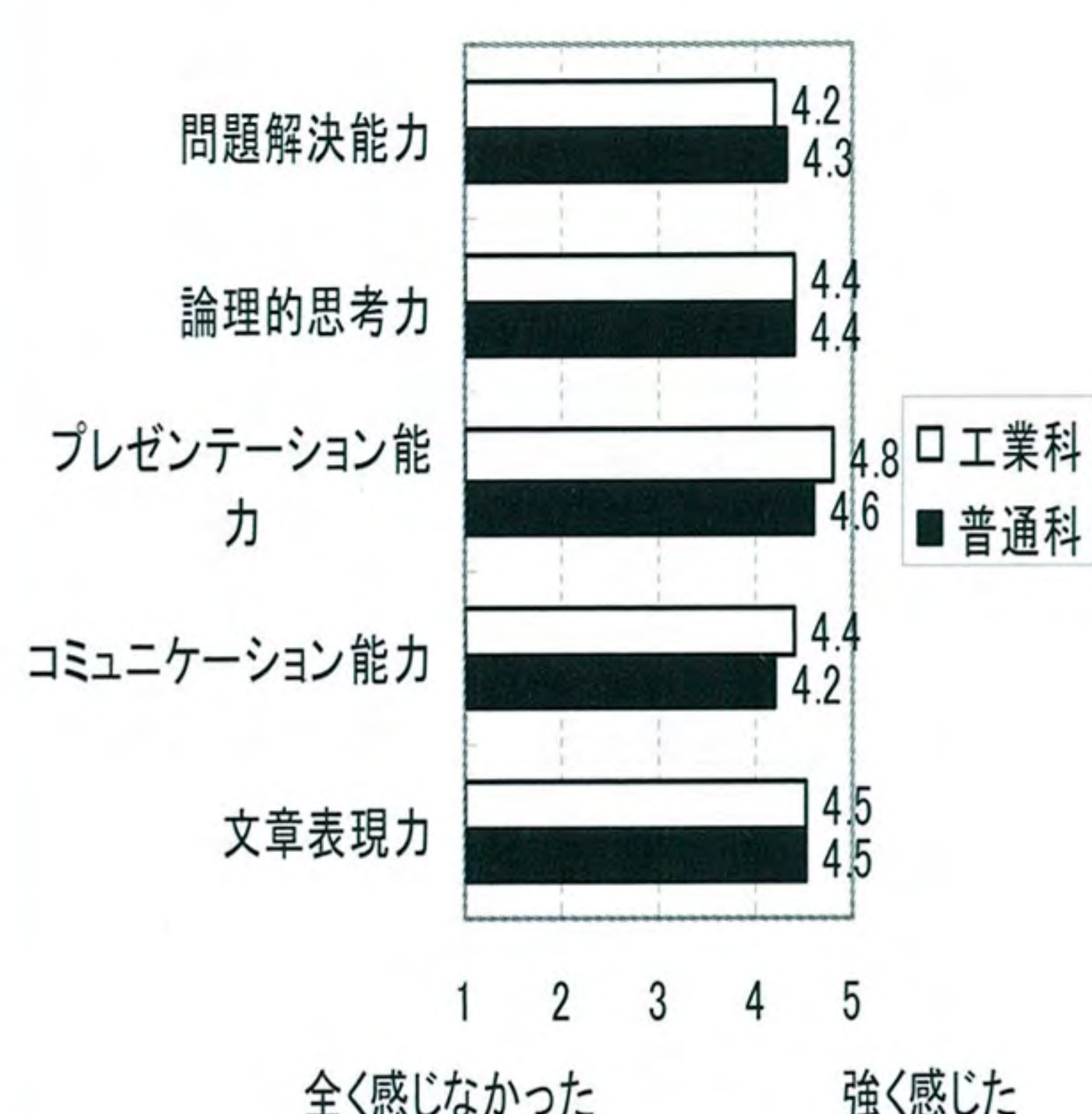


化学系（工業科と普通科）

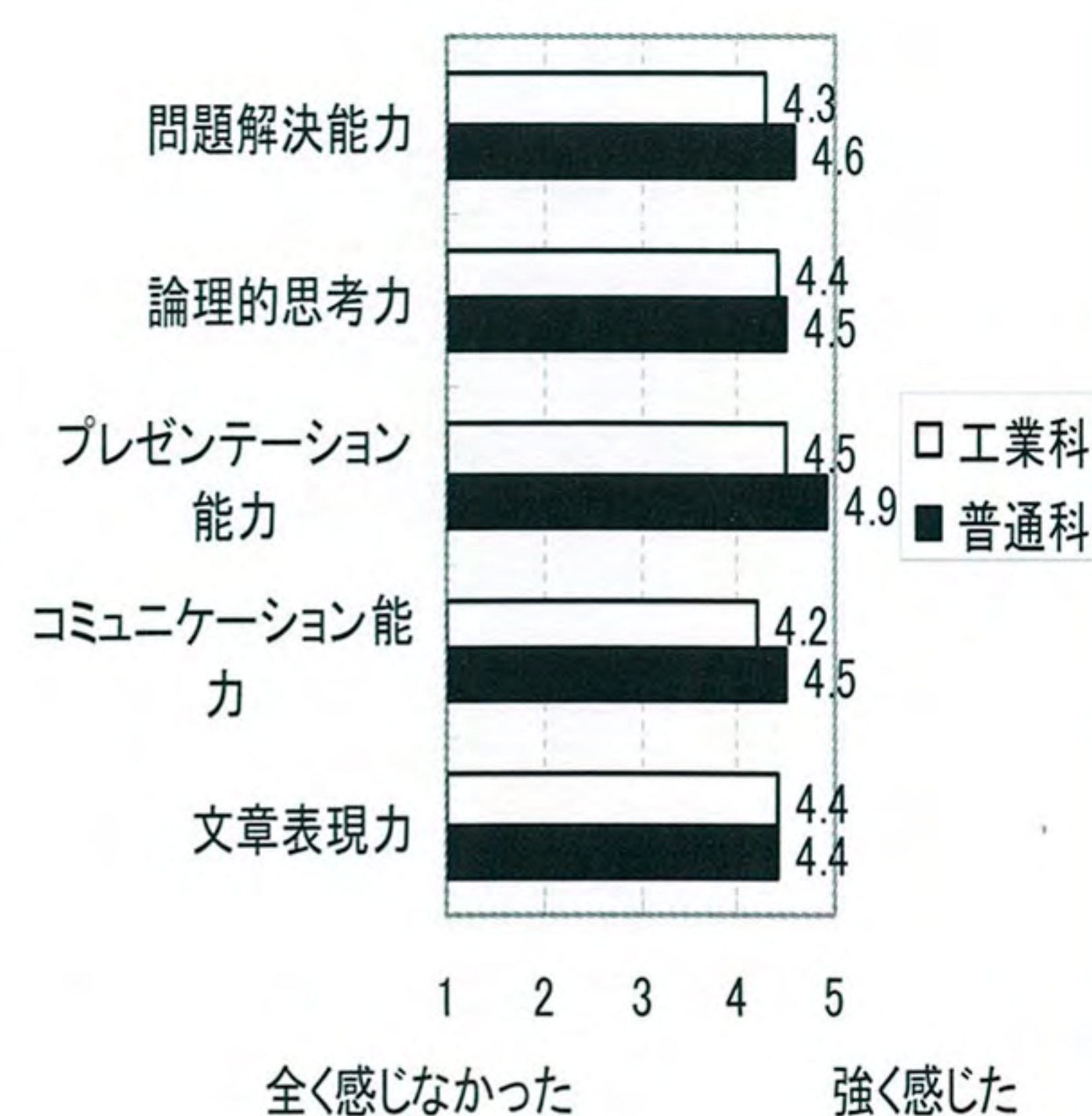


高大連携の成果（Ⅱ）：終了時 自己評価

物理系（工業科と普通科）



化学系（工業科と普通科）



【評価：考え方の転換】

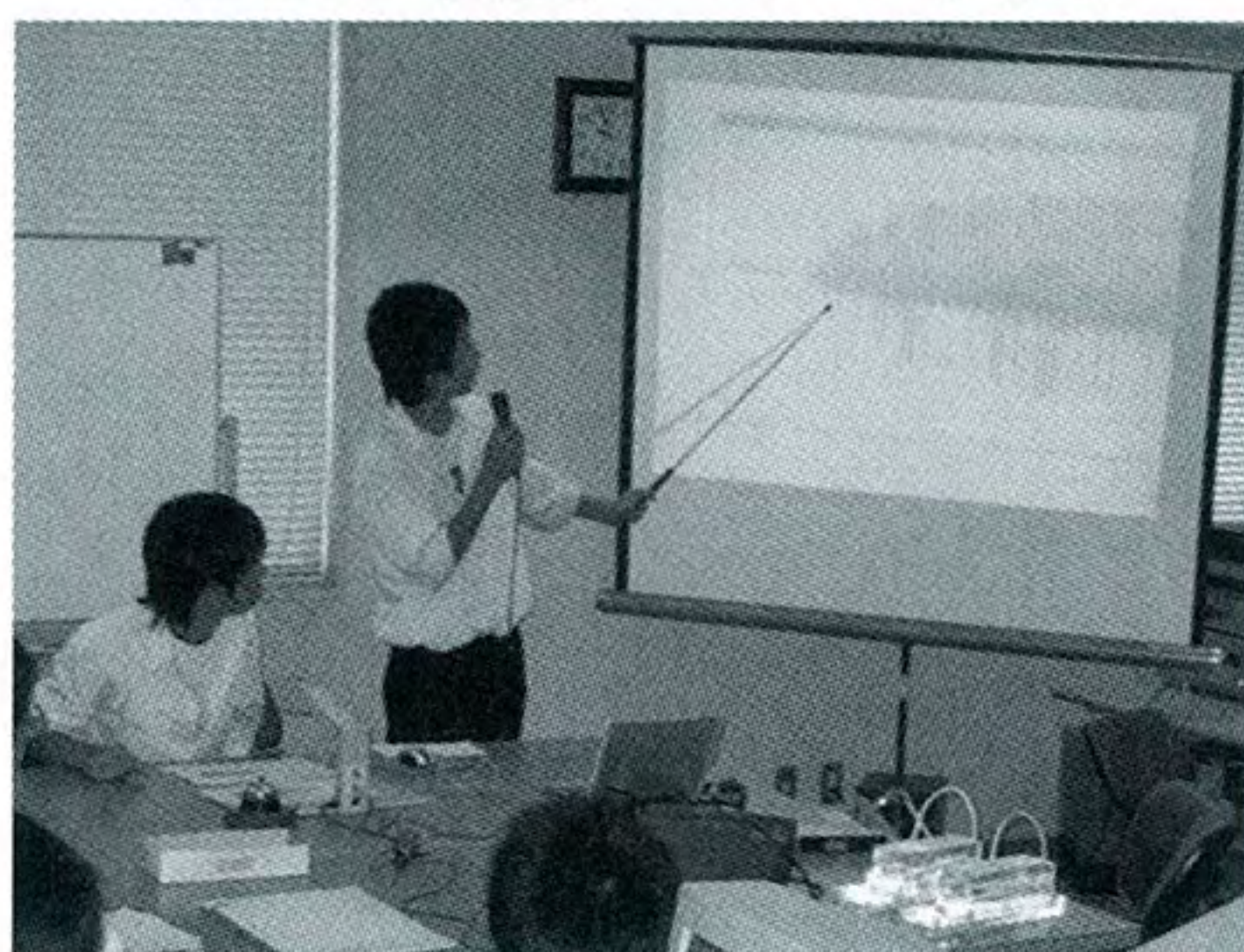
終了時、自己評価



ルーブリックによる他者評価

高大連携活動の評価方法の変化

<H15 年度～ H24 年度>



実践終了後、アンケート調査
(自己評価)

<H25 年度～ 現在>



実習毎に、ルーブリックを用いて評価 (他者評価)

探究的な取り組みを実践しても



- 10年前の高校教育と現行の高校教育を比較すると、ほとんど変化していない。

高大連携で培った多様な学習成果



ルーブリックによる他者評価



評価結果を入試に活用できないか？

文科省 委託事業

- 高等学校における「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」

テーマ: 課題研究による多様な学習成果の評価手法に関する研究と大学入試改革

(期間: 平成25年～平成27年)

研究代表 : 大久保 貢

研究協力者: 福井県内の高校教員および福井県教育委員会、県教育研究所

科研費: 「普通科高校と大学の連携による高大接続教育を創造する課題研究の実践」(期間: 平成24年～26年)

【狙い】評価結果を大学入試に活用 対策▼

課題研究の実践により培った多様な学習成果
評価する手法を開発(ルーブリックによる評価)



評価結果を大学入試の選抜材料に活用



知識中心(暗記型)の大学入試を改善



高校教育の質的保証に繋がる

ルーブリック評価を用いた 高大連携活動

課題研究の実践

コンピュータを使った音声
情報処理(探究型)

- ・ 実施日: 8/9, 10, 11 の3日間
- ・ 第1日目の夜 宿泊研修
- ・ 参加校 : 4 校
- ・ 参加人数: 16 名



LEDが照らす物理の世界
(講座型)

- ・ 実施日: 10/24, 25 の2日間
- ・ 参加校 : 1 校
- ・ 参加人数: 12名

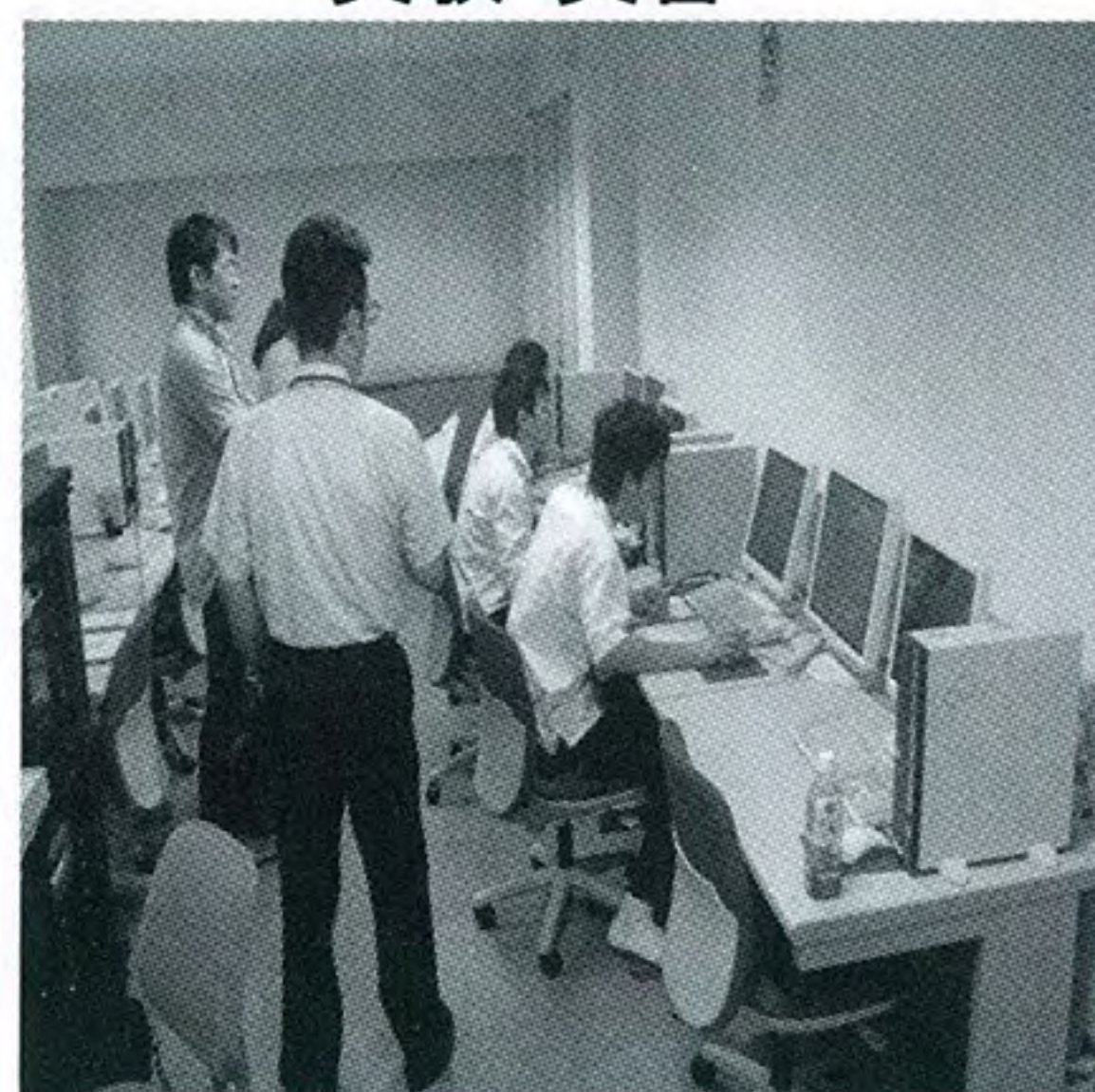


ルーブリック評価を用いた 課題研究の実践

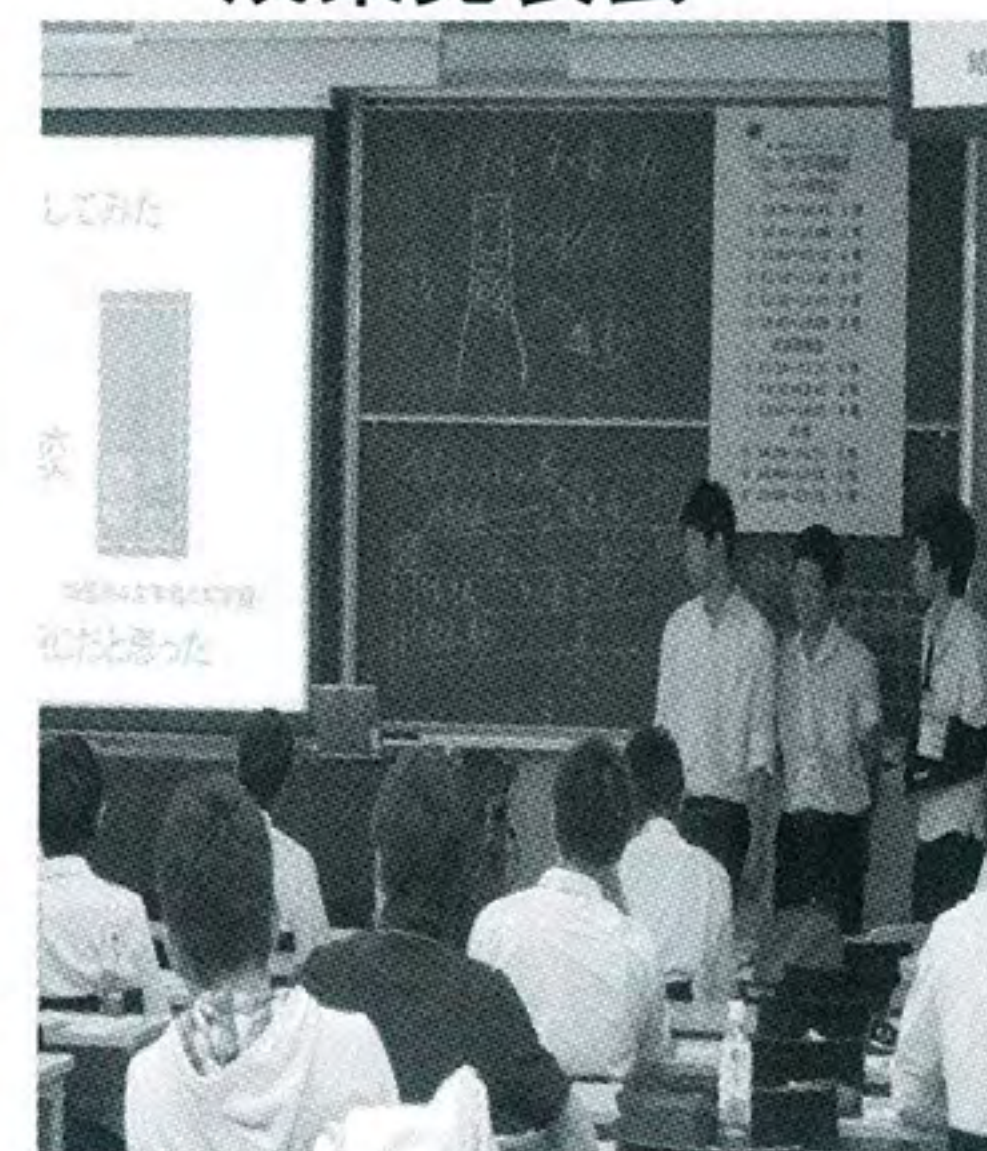
テーマに関する講義



実験・実習



成果発表会



評価場面: 実験・実習、発表資料作成および成果発表をルーブリックにて評価

評価対象とした学習成果

評価したい三つの能力とその構成要素

能力の発達段階		気づき	内化	共有	関連づけ
考力	考え抜く力	考えを深める力		(問題解決力)	
		問題発見力	目標設定力	計画力	調整力
働力	働きかけの力	他を巻き込み活動する力		(コミュニケーション力)	
		自己表現力	先見力	発信力	傾聴力
創力	創り出す力	困難に立ち向かう力		(活動力)	
		実行力	修正力	独創力	企画力

評価する能力とルーブリック

評価対象			C (1)	B (2)	A (3)	S (4)
考力	問題発見力	変化や異常を見る力	変化や異常に気がつかない。	変化や異常に気がつくが、その原因については考えない。	変化や異常に関するいくつかの事柄との関係性に着目する。	変化や異常が起こった要因と現象が起こった経緯について考える。
			コメント			
働力	自己表現力	活動の方向性を提案する力	思いつきでしか見通しがもてない。	予想はできるが、その根拠は言えない。	自分なりの理由を持った予想が言える。	自分なりの規則性などを考えたモデルを示して予想できる。
			コメント			
創力	実行力	活動を制御する力	指示された課題を実行している。	積極的に課題に取り組み、新しい課題にも挑戦している。	繰り返し作業に取り組み、規則性について考えている。	規則性を理解し、新しい解決方法を探るなどの探求的活動を試みる。
			コメント			

ルーブリックによる評価方法

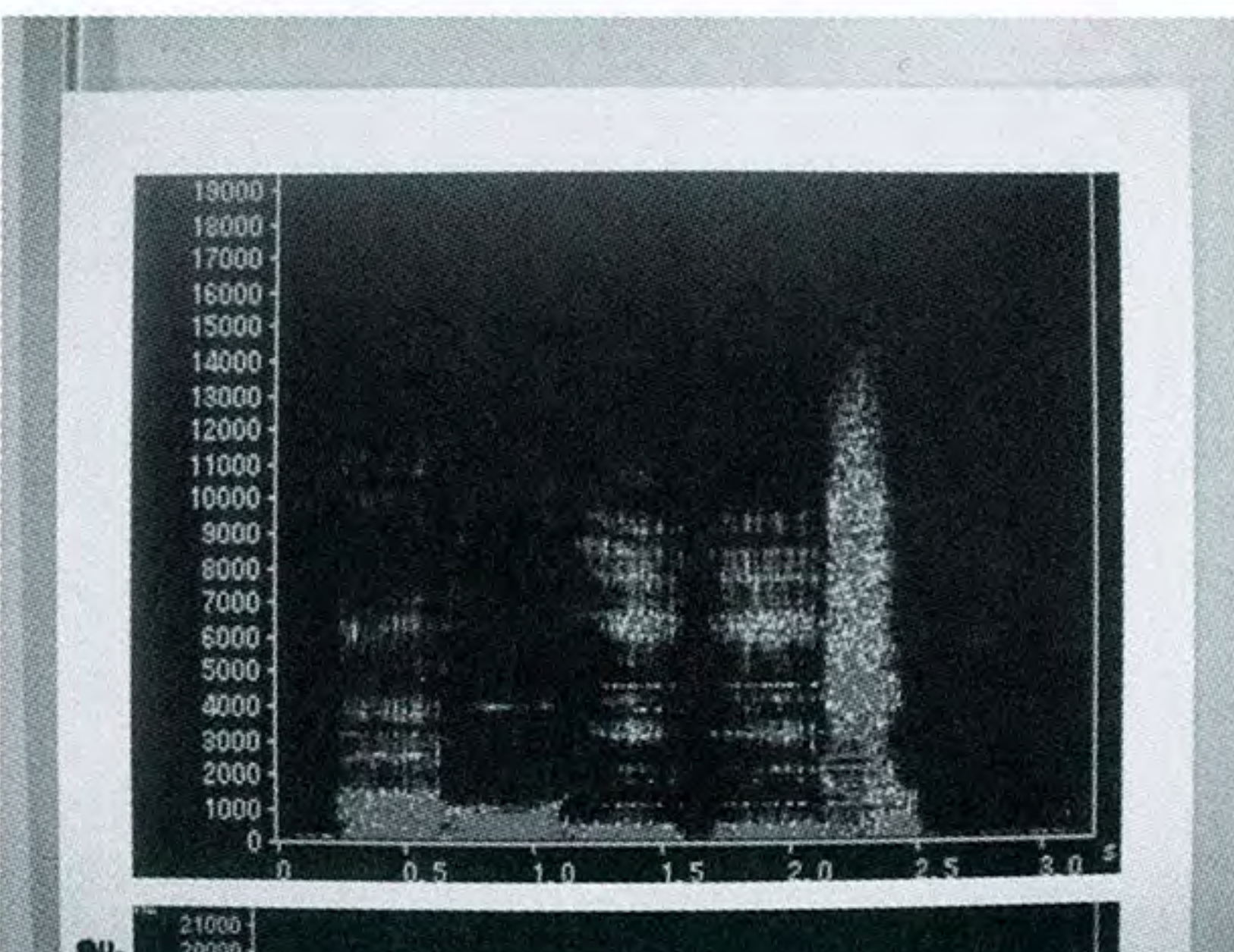
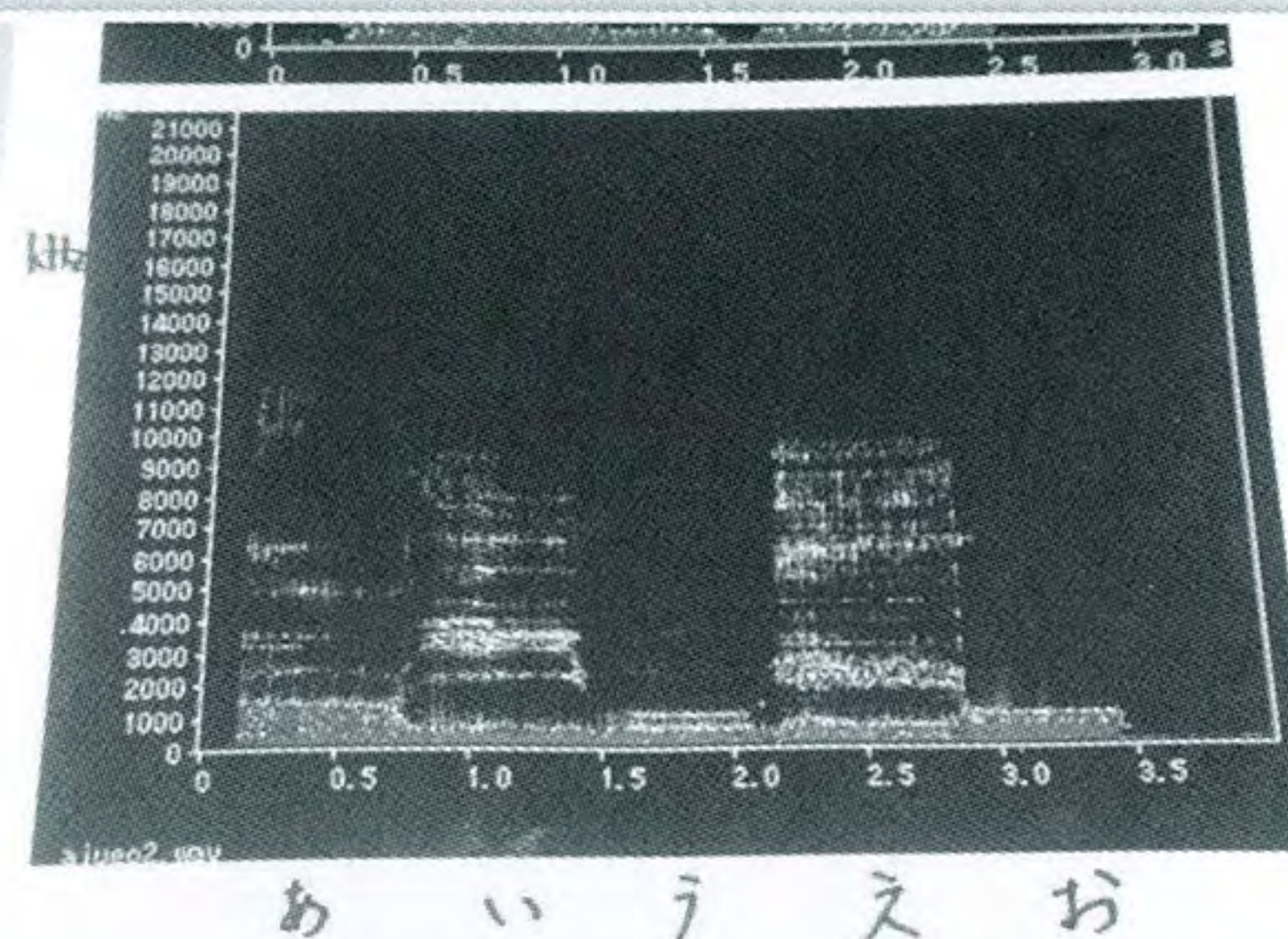
評価方法

- 1グループ: 3名
(3名とも異なる高校)
- 1グループ: TA 1名 配置
(TA 実験指導と評価)
- 1グループ: 評価教員2名配置
▼
評価教員: 県教委 2名
(県教育研究所、高校教育課)

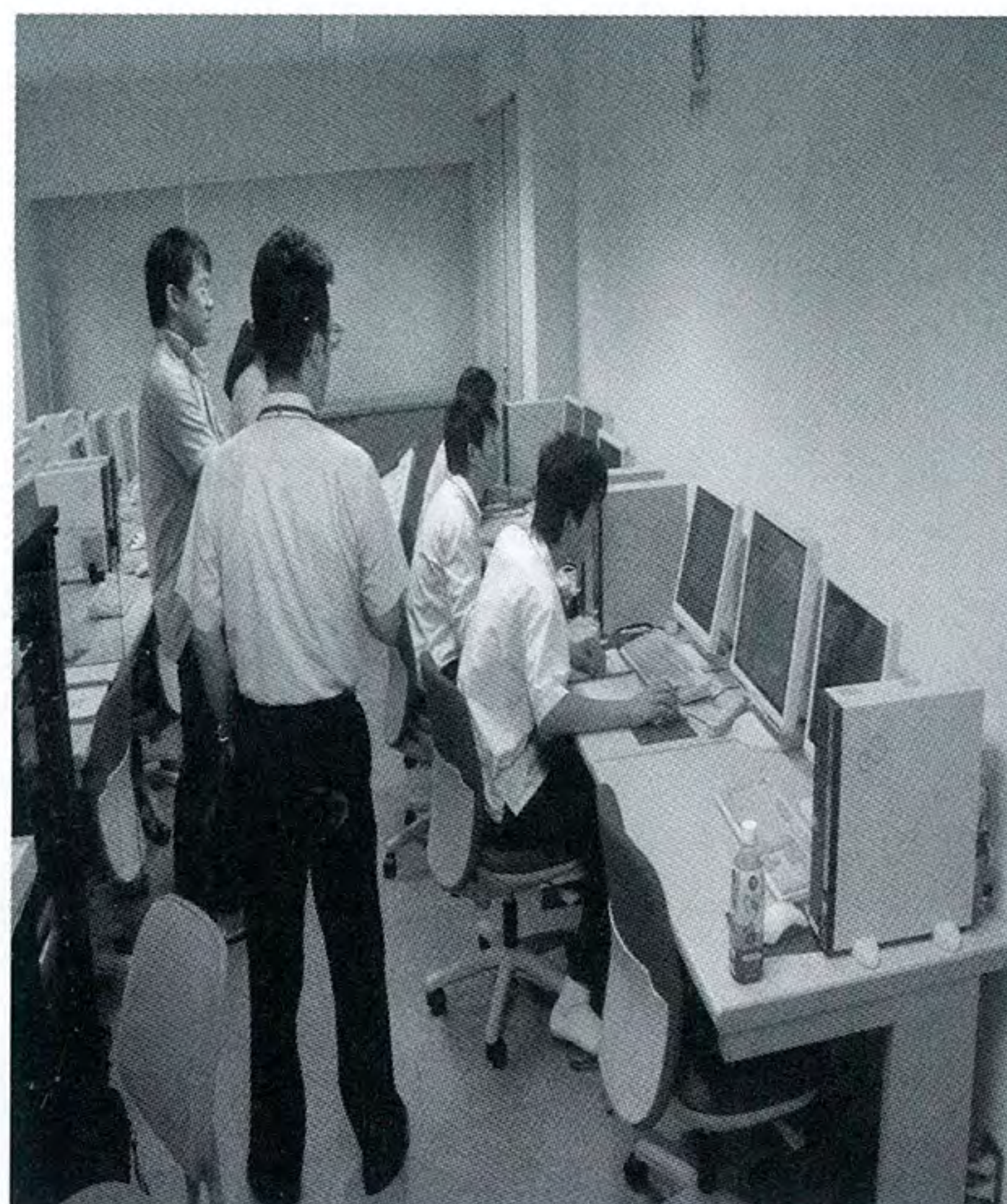


ある評価場面

活動内容
声紋分析ソフトの「声門」を用いた、音声の声紋分析



教員及び TA による評価の様子



評価結果(ある評価場面)

1	評価対象		C (1)	B (2)	A (3)	S (4)		
A	①	考力	問題発見力	変化や異常を見る力	変化や異常に気がつかない。	変化や異常に気がつくが、その原因については考えない。	変化や異常に関するいくつかの事柄との関係性に着目する。	変化や異常が起こった要因と現象が起こった経緯について考える。
・文章の朗読 ・逆転文章の考察		働力	自己表現力	活動の方向性を提案する力	コメント			
		働力	自己表現力	活動の方向性を提案する力	思いつきでしか見通しがもてない。	予想はできるが、その根拠は言えない。	自分なりの理由を持った予想が言える。	自分なりの規則性などを考えたモデルを示して予想できる。
					コメント			
		創力	実行力	活動を制御する力	指示された課題を実行している。	積極的に課題に取り組み、新しい課題にも挑戦している。	繰り返し作業に取り組み、規則性について考えている。	規則性を理解し、新しい解決方法を探るなどの探求的活動を試みる。
					コメント			

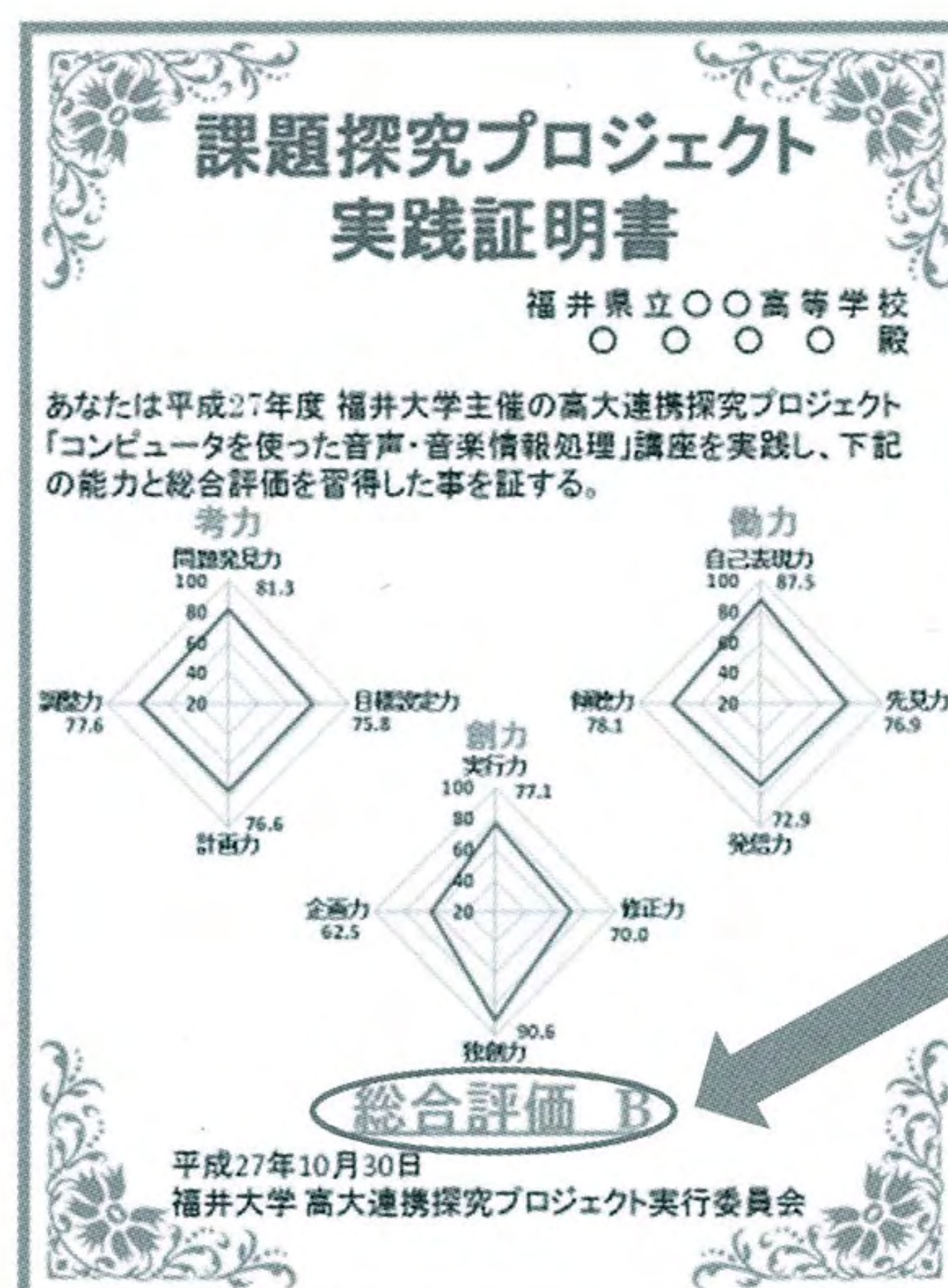
ルーブリックによる評価結果

全評価場面(12場面)での ルーブリックによる評価結果(平均)



- ・「調整力」: 3.2
(得られた結果に対する関連性を推測する力) 《実践終了後、自由記述より》
「参加して、いきなり実験でなく、まず仮説を立てて、実験し考察することの大切さを感じた」
- ・「傾聴力」: 3.4
(他人の意見と比較して考える力)

課題探究プロジェクト「実践証明書」の発行



この評価結果
を入試に活
かせないか
？

ルーブリック評価により分かった事

- ・ 凄く手間がかかる。
- ・ しかし、2日目あたりから評価していると、「この生徒は大学で十分にやっていける」という事が明らかに感じ取れる。

この生徒のAO入試
成績、入学後の成績
は？

SSH 指定高校の先生方も同感している。

探究プロジェクト参加者の 追跡調査

- ・ 評価のズレ(信頼性)
- ・ 評価の妥当性

探究プロジェクト参加者の追跡調査

実践終了後の**高校**および**大学**での追跡調査

【高校側】・高校教員への聞き取り調査

・高校での成績の伸び

【大学側】・総合評価結果とAO入試選抜結果

・総合評価結果と大学入学後の成績

追跡調査【高校】: 高校教員への聞き取り調査

～高校教員への聞き取り調査結果～

- ① 明確な目的を持った進学先の決定
(目的を持った志願先の決定)
- ② 学習に対して主体的および意識的になった
(主体的に学ぶ)
- ③ 模擬試験成績や校内試験の成績が伸びた
(成績の伸び)
- ④ 志願大学AO入試Ⅱに合格
(志願大学合格)



実践証明書の総合評価と大学進学先

ある高校で2年生(6名参加)、その後の進学先



A 評価(1名): 難関国立大学 合格

B 評価(3名): 地方国立大学 合格

C 評価(2名): 公立大学、私立大学 合格

注)この高校での参加者募集方法:能力のある生徒だけを集めたのではない。

追跡調査【大学】:

- 【大学側】・総合評価結果とAO入試選抜結果
- ・総合評価結果と大学入学後の成績



この追跡調査【大学】:評価の信頼性・妥当性の検証は5/26（第3セッション）にて発表

ルーブリック評価の反省点

- ・評価疲れ
- ・評価のずれ
- ・評価の簡素化



地方国立大学が連携して評価の共通化

開発したルーブリック評価の入試への応用…「高大接続型AO入試」

福井大学
国際地域学部

AO入試 I (高大接続型入試)

● 高大接続型入試とは
高校での取り組みやその成果に関するレポート・面接・プレゼンテーション・調査書等により、学力試験だけでは評価しにくい多面的な能力・意欲・資質等を評価するAO入試です。
出願の対象者は、高校で次のような取り組みを行った上で、「取り組みと成果に関するレポート」が提出できる者です。

取り組みと成果に関するレポート

- A** 高校での授業等での取り組み
○高校での授業等における課題解決活動
○進路選択活動を行った高校での活動 など
- B** 大学と連携した事業への参加及び取り組み
○進路選択活動と連携した課題解決活動への参加 など
- C** 異文化交流及び体験、国際的視点からの取り組み
○海外留学や海外研修への参加
○国際交流活動への参加
○留学力(英語力)向上の取り組み(英語検定等) など
- D** 関心や興味を持ったテーマに関する自由研究や社会活動の発展的な取り組み
○課題や社会問題の調査
○ボランティア活動の参加とその成果
○授業外での課題解決活動 など
- E** 社会的に評価されているその他の活動
○研究や創作活動などの成果や発表
○各種大会・コンクールや賞状等の取得 など

平成29年度 AO入試 I (高大接続型入試) スケジュール

出願期間	第1次選考	第1次選考合格者発表	最終選考日	最終選考合格者発表
平成28年 11/7(土)～11/11(水)	前期選考	平成28年 11/28(金)	平成28年 12/10(土)	平成28年 12/15(金)

・【第1次選考】
書類審査

・【最終選考】
プレゼン＋面接

高校教育の質的保証のために

ガイドブックの作成

ガイドブック

「音声情報
処理」

Guide Book

「ダイオード
の特性」

Guide Book

ガイドブックの内容

- 説明文
▼
- 課題
▼
- 実験ノート
▼
- ルーブリック

<ガイドブック作成の狙い>

- 高校教員が、この本を参考にして課題研究に取り組んでもらい、探究的な学習への一助
- 高校教員が、ルーブリックにより生徒さんを評価することに慣れてもらう
～高校教員の評価能力の向上を図る～
- 高校教育の質保証への貢献



今後の方向性

- ① 地方国立大学での評価の共通化
- ② 高校教員の育成:
 - ・探究的な学習へ
 - ・評価技術の習得

ご清聴
ありがとうございました。



国立大学アドミッションセンター連絡会議会則

制定 平成 15 年 6 月 4 日
最終改正 平成 29 年 5 月 24 日

(名 称)

第 1 条 本会は国立大学アドミッションセンター連絡会議と称する。

(目 的)

第 2 条 本会は、高等学校・大学間の接続関係の改善及び加盟機関における入学者選抜等の業務改善に関する研究協議を行い、あわせて加盟機関相互の交流促進を図ることを目的とする。

(事 業)

第 3 条 本会は、前条の目的を達成するため、必要な事業を行う。

(構成員)

第 4 条 本会は、国立大学のアドミッションセンター、及び国立大学において高等学校・大学間の接続関係の改善に関する研究及び実践に携わる機関によって構成する。

2 本会の加盟機関は、別表に掲げる機関とする。

3 新たに入会しようとする国立大学の機関は、総会の承認を得るものとする。

(役 員)

第 5 条 本会に以下の役員を置く。

一 会 長 1 名

二 事務局長 1 名

三 運営委員 各加盟機関からの代表 1 名

四 幹 事 運営委員の中から会長の委嘱 6 名

2 会長及び事務局長は総会において選出する。任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の会長及び事務局長の任期は、前任者の残任期間とする。

3 役員は加盟機関の代表をもって、これにあてる。

(役員の仕事)

第 6 条 会長は、総会を招集し、その議長となる。

2 会長が欠けたときは、事務局長がその職務を代行する。

3 事務局長は、本会の運営に必要な事務全般を行う。

4 運営委員は、本会の運営に携わる。

(総 会)

第 7 条 総会は、加盟機関の 3 分の 2 以上の出席がなければ開くことができない。

2 総会の議事は、出席した加盟機関の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(加盟機関以外の出席)

第8条 会長が必要と認めたときは、加盟機関以外の者を総会に出席させ、意見を聴くことができる。

(事務局)

第9条 本会に、本会の事務を処理するための事務局を置く。

2 事務局は、事務局長の所属する機関に置く。

(雑 則)

第10条 この会則に定めるもののほか、事業の実施に関し必要な事項は本会が別に定める。

附 則

この会則は、平成15年6月4日から施行する。

附 則

この会則は、平成17年6月1日から施行する。

附 則

この会則は、平成18年5月31日から施行する。

附 則

この会則は、平成19年5月29日から施行する。

附 則

この会則は、平成20年5月25日から施行する。

附 則

この会則は、平成21年5月19日から施行する。

附 則

この会則は、平成22年6月7日から施行する。

附 則

この会則は、平成23年5月24日から施行する。

附 則

この会則は、平成25年6月5日から施行する。

附 則

この会則は、平成28年6月1日から施行する。

附 則

この会則は、平成29年5月24日から施行する。

別表（第4条第2項関係）

北海道大学アドミッションセンター
小樽商科大学アドミッションセンター
旭川医科大学入学センター
福島大学アドミッションセンター
東北大学入試センター
山形大学エンロールメント・マネジメント部
茨城大学アドミッションセンター
筑波大学アドミッションセンター
東京大学高大接続研究開発センター
電気通信大学アドミッションセンター
横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター
富山大学教育・学生支援機構アドミッションセンター
福井大学アドミッションセンター
静岡大学全学入試センター
京都工芸繊維大学アドミッションセンター
鳥取大学教育支援・国際交流推進機構入学センター
岡山大学アドミッションセンター
広島大学入学センター
山口大学アドミッションセンター
徳島大学総合教育センター
香川大学アドミッションセンター
愛媛大学アドミッションセンター
高知大学アドミッションセンター
九州大学アドミッションセンター
佐賀大学アドミッションセンター
長崎大学大学教育イノベーションセンター
鹿児島大学アドミッションセンター
鹿屋体育大学アドミッションセンター
琉球大学グローバル教育支援機構アドミッション部門

国立大学アドミッションセンター連絡会議役員〔平成29年度〕

会 長：田原 誠（岡山大学 副学長 アドミッションセンター長）

事務局長：船橋 伸一（富山大学教育・学生支援機構アドミッションセンター副センター長）

運営委員：下表

幹事	大 学 名	氏 名	役 職 名
○	北 海 道 大 学	鈴 木 誠	高等教育推進機構高等教育研究部門教授
	小樽商科大学	佐 山 公 一	アドミッションセンター副センター長
	旭川医科大学	坂 本 尚 志	副入学センター長
	福 島 大 学	中 村 肖 三	アドミッションセンター副センター長
○	東 北 大 学	石 井 光 夫	高度教養教育・学生支援機構 高等教育開発部門入試開発室教授
	山 形 大 学	斉 藤 勤 也	エンロールメント・マネジメント部EM企画課長
	茨 城 大 学	泉 岡 明	アドミッションセンター長
○	筑 波 大 学	島 田 康 行	アドミッションセンター長
	東 京 大 学	南風原 朝 和	高大接続研究開発センター長
	電気通信大学	三 宅 貴 也	アドミッションセンター特任教授
	横浜国立大学	海老原 修	高大接続・全学教育推進センター高大接続部門長
○	富 山 大 学	船 橋 伸 一	教育・学生支援機構アドミッションセンター 副センター長
	福 井 大 学	大久保 貢	アドミッションセンター教授
	静 岡 大 学	雨 森 聡	全学入試センター准教授
	京都工芸繊維大学	山 本 以和子	アドミッションセンター准教授
	鳥 取 大 学	森 川 修	教育支援・国際交流推進機構入学センター准教授
○	岡 山 大 学	田 中 克 己	アドミッションセンター教授
	広 島 大 学	杉 原 敏 彦	入学センター長
	山 口 大 学	岩 部 浩 三	アドミッションセンター長
	徳 島 大 学	植 野 美 彦	総合教育センターアドミッション部門長
	香 川 大 学	真 鍋 芳 樹	アドミッションセンター教授
	愛 媛 大 学	深 田 昭 三	アドミッションセンター長
	高 知 大 学	奥 田 一 雄	アドミッションセンター長
○	九 州 大 学	佐 藤 喜 一	基幹教育院教授
	佐 賀 大 学	西 郡 大	アドミッションセンター教授
	長 崎 大 学	塚 元 和 弘	大学教育イノベーションセンター副センター長
	鹿 児 島 大 学	竹 内 正 興	アドミッションセンター准教授
	鹿屋体育大学	前 阪 茂 樹	アドミッションセンター長
	琉 球 大 学	天 野 智 水	グローバル教育支援機構アドミッション部門長

編集後記

石切職人と入試改革

みなさんは3人の石切職人の話をお聞きになったことがあるでしょうか？ それはこんな話です。

通りすがりの人が、一生懸命に石を切っている3人の職人に何をしているのかを尋ねました。

第1の男はこう答えました。「この仕事をして、生活しているんだよ」

第2の男はこう答えました。「この国で一番の石切職人になるためなんだ」

第3の男はこう答えました。「誰もが望んだ教会を精一杯建てているんだ」

この話は、経営学者のピータードラッカーも引用していたので、ご存じの方も少なくないことでしょう。

第1の男は単に生活のために仕事をしているに過ぎず、第2の男は優れた仕事をしているものの、スペシャリストになることが目的となっています。しかし、この2人とは異なり、第3の男は、みなが待ち望んだ教会を建てるという未来像を描き、志を持って働いていることが分かります。

ではこの話を私たちに当てはめると、どうなるのでしょうか？

私たちは多忙化する日常の中で、視野が狭隘になってしまい、入試改革を行うことだけを目的としてしまうかもしれません。さらには何のために入試改革を行うのかを忘れ、優れた入試改革を行うことばかりに集中してしまうかもしれません。

しかし、大切なことは、なぜ入試改革を行うのかという原点に立ち返り、暗記力ではなく、思考力、判断力、表現力といった生きる力を持った人材が育つよう、大学が入試を変えることによって、中等教育へ影響力を及ぼすような入試方法を開発することなのではないでしょうか。

もちろん、大学入試改革から中等教育改革へとつなげることは、本末転倒だという考え方にも同意できます。しかし、大学入試が変わらなければ、高校教育が変わらないのも、また事実だと思われます。

お礼

これまで国立大学アドミッションセンター連絡会議の事務局長を務めてきました。これは加盟大学のみなさまの協力があったのものだと感謝しております。在任中には徳島大学、鹿児島大学、東京大学、小樽商科大学、福島大学、電気通信大学に新たに加盟いただきました。

さらに今現在も、北見工業大学、新潟大学、信州大学、山梨大学、滋賀大学、九州工業大学から加盟申請をいただいています。おそらく電気通信大学で開催される総会では、加盟の申請をいただいた大学がさらに増えていることでしょう。私自身、加盟のお誘いを繰り返し行ってきましたが、みなさまからのお声掛けも加盟校増加の大きな力になったと確信しています。ここにあらためてお礼申し上げたいと思います。

今後とも国立大学アドミッションセンター連絡会議の発展のため、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年3月 事務局 船橋伸一（富山大学）

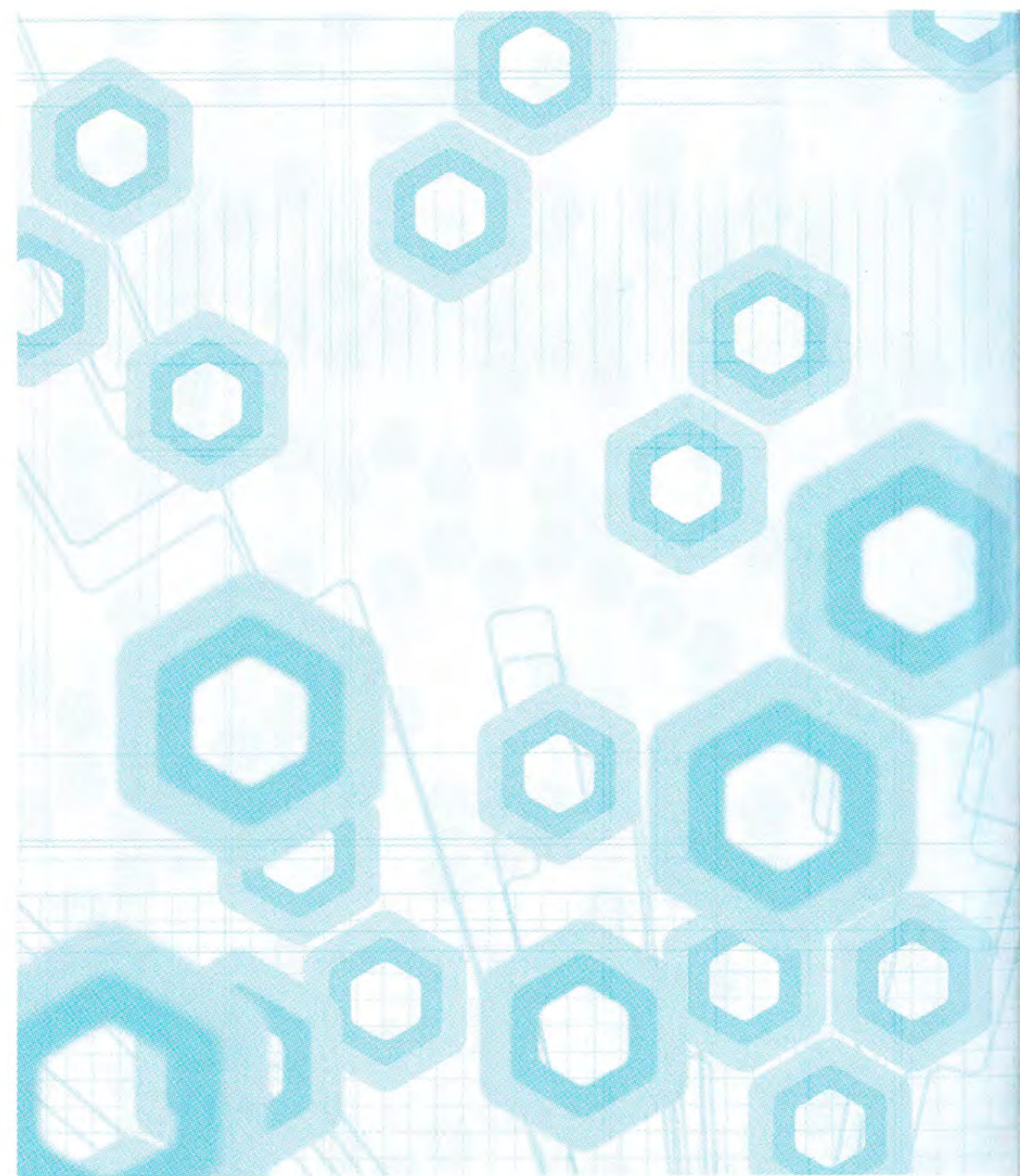
国立大学アドミッションセンター連絡会議ニュース 第15号

発行：国立大学アドミッションセンター連絡会議

編集：富山大学教育・学生支援機構アドミッションセンター（連絡会議事務局）

〒930-8555 富山市五福3190 富山大学学務部入試課

nyusi-2t@adm.u-toyama.ac.jp



国立大学アドミッションセンター 連絡会議ニュース 第15号

発行：国立大学アドミッションセンター連絡会議

編集：富山大学教育・学生支援機構アドミッションセンター（連絡会議事務局）

〒930-8555 富山市五福 3190 富山大学 学務部入試課

nyusi-2t@adm.u-toyama.ac.jp